

複合施設 整備事業 の在り方を考える

～現在の状況について～

口を広げ、気軽に入りやすい形
状に変更した。

④文化ホールの変更について

文化ホールの位置を東南側に移し、ホワイエと執務エリアとのつながりを向上させた。また、使用頻度が多いと思われる中学校吹奏楽部の意見を反映して舞台を広げ、席数を450席とした。舞台には可動式の反響板を設置し、音楽公演と講演会

令和2年8月28日、公共施設等検討委員会を開催しました。検討委員15名のほか、アドバイザーとして北大大学院の森教授、道立総合研究機構建築性能試験センターの奈良部長、基本設計者の藤本壮介氏が参加し、基本設計の変更点等の進捗状況について説明後、委員の皆さまからご意見を頂きました。

令和2年8月28日、公共施設等検討委員会を開催しました。

変更し、床面積を小さくすることで、建設コストを抑制した。

②調理室及びアルコートについて
回廊の形状の変更に伴い、坪庭を無くし、アルコートの位置を調理室の向かい側に移動した。
③カフェ・サロンスペースについて
入り口が狭く独立したスペースから、回廊に添わせる形に間

（3）文化ホールの変更について

文化ホールの位置を東南側に移し、ホワイエと執務エリアとのつながりを向上させた。また、使用頻度が多いと思われる学校吹奏楽部の意見を反映して舞台を広げ、席数を450席とした。舞台には可動式の反響板を設置し、音楽公演と講演会両方に対応可能にした。

（4）樹木について

北海道の環境に合い、成長が速く管理しやすいアカエゾマツが有力候補。樹木の間隔は枝張りに配慮して調整し、メンテナンス作業通路を確保する予定。

（5）その他

ホール屋上からの落雪に配慮し、通路に庇を設ける。また、ホール屋上には太陽光パネルを設置する予定。

委員からの意見・質問と回答

（1）回廊内の消防活動対策について

実施設計者が消防等と協議をしていると思うが、厳密に把握しきれていないので確認する。

（2）土日の回廊の開放と、カフェ・サロン、フリースペースの設置・活用について

役場庁舎の事務室など管理部

（3）廊・バス待合所は、土日や夜間も時間を決めて開放する予定。

ホワイエの一部にテーブルや椅子を設置し、平時はフロアとして使える。また、調理室・会議室もサロン等で使うことは考えられる。サークル活動室前やアルコーブ・調剤薬局向かい等には、インフォメーションボーデや休憩スペースを設置する可能性がある。

カフェの運営形態は未定だが、企業や団体に毎日、もしくは週何日か運営して頂き、軽食等を提供できる場所にしたい。カフェとして使用しない時はサロンとしての活用も可能。

③樹木を低くできないか

竣工時5m位、10年後に7m位を想定。敷地が広いので、丈の低い樹木では見栄えがせず、完成時に樹木で囲まれた状態にならないのは勿体ないと考える。5m位までは当初予算内か、より安く調達可能である。

④ホールの音響設備設置について

舞台袖と、ロールバックチエアの上にコントロールルームを設けている。導入機材の検討はこれからである。

⑤コロナの関係で国の施策等の変更も予想されるが、計画は柔

軟に変更できる余地はあるか

国・北海道の動向は今後も注視しながら対応したい。新北海道スタイルに対応した運用の仕方は検討していく。

⑥調理室のレイアウトは、使用が想定される団体に意見を聞いてほしい

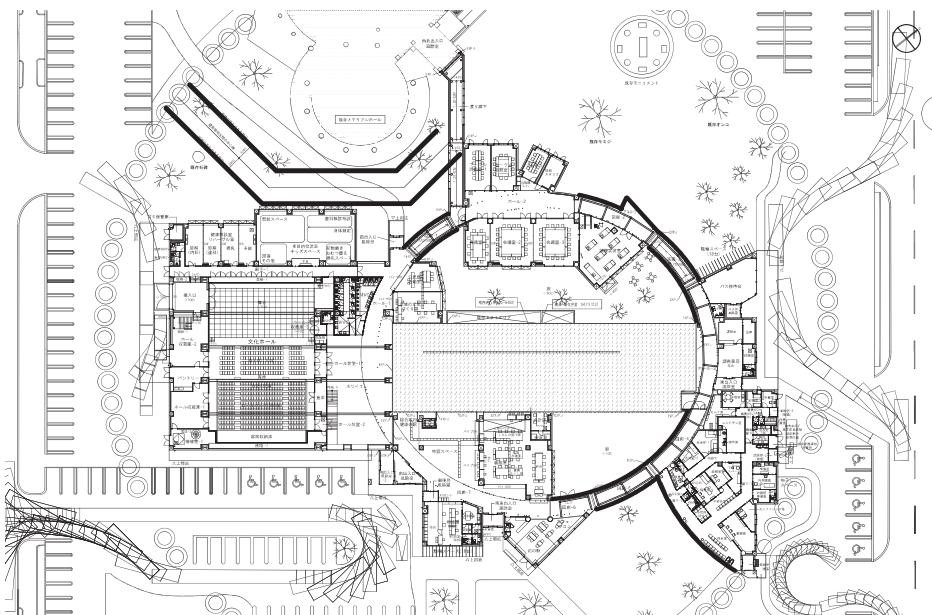
各団体との打ち合わせもしていきたい。

(7)調理室で作つたものを食べる
部屋はあるか

調理室横の会議室との間にドアを設け、往来可能にする。

(8)部外者の不法侵入に対するセキュリティ管理について

基本的に閉所時間は守衛を置くことと機械警備の2点を考えている。



【現在の図面】

現在、複合施設整備事業は、来年の着工に向けて設計を進めています。色々な世代の方が集うにぎわいスペースを目指し、頂いた意見をもとに、さらに詳細を詰めていきます。